

平成 29 年 6 月 19 日

碧海信用金庫

各位

2017 年 3 月期（平成 28 年度）決算発表

碧海信用金庫（理事長：石川 澄夫）は、2017 年 3 月期（平成 28 年度）の決算について、以下のとおり業績の要約を公表いたします。

記
1. 主要業績数値

		2017 年 3 月期 (当期)	2016 年 3 月期 (前期)	増 減
預貸金状況	預金積金残高	1,967,507 百万円	1,921,957 百万円	+45,550 百万円 (+2.36%)
	貸出金残高	1,021,795 百万円	1,006,360 百万円	+15,434 百万円 (+1.53%)
損益状況	実質業務純益	4,941 百万円	5,202 百万円	△261 百万円
	経常利益	5,629 百万円	5,378 百万円	+251 百万円
	当期純利益	4,105 百万円	4,089 百万円	+16 百万円
健全性	純資産額	178,427 百万円	179,515 百万円	△1,087 百万円 (△0.60%)
	自己資本比率(単体)	16.98%	17.68%	△0.70 ポイント
	不良債権比率	3.14%	3.33%	△0.19 ポイント

※ 単位未満切捨て表示。

※ 不良債権比率は金融再生法ベース。

2. 業績コメント
〔預貸金状況〕

○預金積金残高は、法人預金・個人預金を中心に増加し、前期比 45,550 百万円増加の 1,967,507 百万円となりました。貸出金残高は住宅ローンなどの増加により、前期比 15,434 百万円増加の 1,021,795 百万円となりました。

〔損益状況〕

○貸出金利息などが減少したものの、貸倒引当金戻入益の計上などにより、実質業務純益 4,941 百万円、経常利益 5,629 百万円、当期純利益 4,105 百万円となりました。

〔健全性〕

○金融機関の安全性を表す代表的な指標である自己資本比率（単体）は、順調な預金等の増加に伴う総資産の増加により、前期比 0.70 ポイント低下の 16.98%となりました。信用金庫に求められる国内基準（4%）を大きく上回っており、当金庫の安全性は極めて高い状態にあります。

○不良債権比率（金融再生法ベース）は、地域経済への影響を十分に考慮しつつ減少に努めた結果、前期比 0.19 ポイント低下の 3.14%となりました。

以 上